

炎症



じんましん (**Hives**)

重要ポイント

- じんましんは、多くの場合あきらかな原因は見つからない
- 原因のうち最も普通なのはウイルスであると考えられる
- 特定の食物に対するアレルギーでじんましんが出ることもある
- 温めないように、なるべく皮膚を低温に保つようにする
- 重症のじんましんを抑えるには、医師の処方する抗ヒスタミンシロップを即座に与えると良い
- 皮膚にローションやクリームを塗っても効果はない

症状

じんましんは子供に非常によく見られる症状です。強いかゆみを伴う赤斑が現れ、数分間のうちに広がります。一時間ほどの後、完全に無くなって皮膚は元の状態に戻ります。子供にできるじんましんは、時には内出血のように見える事もあります。じんましんは温めると悪化し、かゆみが強くなります。

発症個所

顔、胴体、四肢など、身体のどこにでも現れます。たいていの場合、赤斑が現われては消えているうちに数日で治ります。まれに現われたり消えたりしながら何ヶ月も継続することもあります。

原因

じんましんは、多くの場合あきらかな原因は見つかりません。子供のじんましんの原因として最も多いのは、ウイルス感染症（ただし、子供はじんましん以外の症状を見せない事が多いです）であると考えられています。その場合、じんましんは一週間以内に消えることが多いですが、他の病気に伴って再発することもあります。細菌感染症がじんましんを引き起こすこともあり、抗生物質が必要なこともあります。じんましんは、食べたもの（たとえばいちごや魚介類など）に対するアレルギーが原因で起こることもあります。まれにペニシリン等の薬品がじんましんを引き起こすこともあります。

治療法

かゆみを伴う皮膚の赤斑は皮膚がアレルギー反応を起こして発生するヒスタミンによって起こります。したがって、抗ヒスタミンシロップ（通常医師が処方する）による治療が有効です。ほとんどのじんましんはこれで抑えられます。温めると悪化するので、じんましんがでたら温めないようにします。扇風機や冷たい濡れタオルで患部を冷やすとかゆみが軽減し、早く治まるかもしれません。皮膚にローションやクリームを塗っても効果はありません。

Japanese – Urticaria (Hives)

じんましんは、発症前12時間以内に食べた食物に関連していることがほとんどです。どの食物を食べてから12時間以内にじんましんが起きるのかを特定するよう努力しましょう。原因となる食物が分かれば、以降はその食物を食べさせないように気を付けることができます。

より詳しい情報の入手先：

かかりつけの医師

母子健康看護師

薬剤師

継続的なじんましんの場合は皮膚科もしくはアレルギー専門医

© 2002, Department of Dermatology, St. Vincent's Hospital Melbourne, Victoria Parade, Fitzroy, Victoria 3065 Australia.